

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

日本音楽集団

第八十八回◆定期演奏会



一九八五年四月二十四日「水」午後七時開演

芝 a b c 会館ホール [地下鉄三田線芝公園下車]

■主催 日本音楽集団・現代邦楽協議会

ごあいさつ

日本音楽集団創立21年目の幕開けの演奏会によるこそお出かけ下さいました。

今回は室内楽中心のプログラムで、今までにはあまり聞かれなかった組み合わせで、邦楽器の幅広い可能性を探求してみたいと思います。様々なジャンルでご活躍なさっておられるジャズ・ピアニストの佐藤允彦氏、笙の妖精宮田まゆみさん、新進作曲家吉川和夫氏の方々にご助力をいただきました。

薫風吹き渡る春の今宵、心地良いひとときをお過ごしただければ幸いです。

—— 曲目解説と演奏者 ——

一、 笛・太棹三味線のための二重奏曲 〈委嘱初演〉

吉川 和夫 作曲

〔笛〕 西川浩平 〔太棹三味線〕 田中悠美子

「邦楽器」が、日本の古典音楽を表現する楽器……であるうちは、また、西洋音楽ふうなパッセージをそこに求めようとするうちは、どちらも新作の作り手としては、自由になれないような気がしています。これらの楽器を、生まれ育ったこの国に根っこを置きながらも、素材の質感を失なわぬよう、「日本」でも「西洋」でもない「幻の国」(できることなら、人間が生き生きとして生きていかれる「ユートピア」であってほしいのですが……)に解き放つこと。それが、ぼくにとってこの楽器に作曲しようとした意味であり、とりあえずは、「幻の国」をつくるための、様々なジャンルとの戦いが、作曲作業のすべてであったように思います。

(吉川和夫)

二、 月 —— 笙と尺八のために ——

増本 伎共子 作曲

〔尺八〕 三橋貴風 〔笙〕 宮田まゆみ(客演)

尺八と笙の二重奏という組み合わせの作品は恐らくこの一曲だけかも知れません。作曲者の言葉によりますと、「この作品において意図したのは、どちらかの楽器が主従という関係ではない。まったくタイの立場における合奏であり、その中ではそれぞれの楽器が自分の音楽を作り、しかもお互いに寄りそって、つかず離れず進む……」という事です。

笙により奏でられる星座群の空間の中に、尺八が浮かぶ月といったところでしょうか、この曲内の尺八の使い方は従来の作品に対して、とても特徴的であるといえるかも知れません。また「月」は演奏する度に、私自身の内で大変印象が変化してくる曲なのですが、今夜のコンサートではどの様なスペース空間をイメージ出来るのか楽しみでもあります。

(三橋貴風)

三、 散 華

半田 淳子・佐藤 允彦 作曲

〔琵琶〕 半田淳子 〔ピアノ〕 佐藤允彦(客演)

この曲は1983年6月ニューヨーク・カーネギーホールで行なわれた、クールジャズフェスティバルに佐藤氏と共に出演した時の曲である。クールジャズフェスティバルは、前身をニューポートジャズフェスティバルと言い、今回世界で数多く催されているジャズフェスティバルでは最も古いものである。作曲はまず私が琵琶と語りの部分をつくり、佐藤氏がそれにピアノパートを書いて下さった。語りは前唄と後唄の様な形式で前半に平家物語りの冒頭の部分、後半の詩は今でも私の胸に強く残っている石牟礼道子著「流民の都」の中から特に著者の快諾を得て使わせていただいた。どちらの詩も普遍的な意味において共通性を感じ、又、人が生まれてから死ぬまで、神の時間からみれば一瞬の出来事であるかもしれない人生の旅路に、いいようのない感性をこめて「散華」と題した。

(半田淳子)

四、メディテーション ——二十絃箏と四本の尺八のために——

新実 徳英 作曲

〔二十絃箏〕吉村七重

〔尺八Ⅰ〕藤崎重康 〔尺八Ⅱ〕田嶋直士 〔尺八Ⅲ〕素川欣也 〔尺八Ⅳ〕三橋貴風

「音楽こそ、より人間的に存在し続けたいと願う私達の心の強い支えたり得るものである。」と新実氏は、この曲の初演プログラムの文章の中に書いておられます。音楽に携わる人々にとって、一つの永遠の理想に違いありません。

メディテーションを演奏するのは、リサイタルでの初演以来今回で2度目ですが、人の声にも似た響きを持つ尺八の音達に包まれて鳴る箏、その流れの中で皆様がそれぞれに、瞑想の時間を持っていただければ、というのが私のささやかな願いです。
(吉村七重)

五、わ

三木 稔 作曲

〔尺八〕田嶋直士 〔琵琶〕半田淳子 〔三味線〕太田幸子

〔二十絃箏〕内藤洋子 〔十七絃〕内藤久子 〔打楽器〕田村拓男

一文字の平仮名のタイトルだが、日本及び平和にかかわる「和」と、手を繋ぐ「輪」、それに驚きの「ワッ」などが微妙に音楽内容に投影されるように書かれている。徹底したヘテロフォニーと即興感覚で貫抜かれており、また終わり近くに各楽器のカデンツァが繰り広げられる。小人数で編成された、1976年アメリカ公演の為に作曲され、以来小編成での海外公演の際、客席とステージが一体となれることからたいへん好評を得ている。初顔合せである今回のメンバーにより、どのような「わ」が描かれるか興味が持たれる。

(内藤洋子)

—— プロフィール ——

佐藤 允彦

1941年東京生まれ、慶応義塾大学経済学部卒業後、米国ボストンのパークレー音楽院に入学。海外でも広く活躍し、又、国内ではレコード制作、映画、CM、テレビドラマ、ラジオの音楽などでも幅広い作曲・演奏活動を続けている。

宮田 まゆみ

国立音楽大学ピアノ科卒業、1975年より雅楽を多忠磨氏に師事。国立劇場雅楽公演、NHK古典芸能鑑賞会、現代曲の公演等に出演、他今までに2回の笙によるリサイタルを行ない好評を博した。1983年にはヨーロッパにおける日本芸術祭に参加。

吉川 和夫

1954年名古屋生まれ。東京芸術大学音楽学部作曲科を卒業。作曲を戸島美喜夫、野田暉行、間宮芳生の各氏に師事し、現在作陽音楽大学講師、日本作曲家協議会会員として活躍している。

次回定期演奏会ご案内

第89回定期演奏会

6月20日[木]
朝日生命ホール

——ヨーロッパが興奮した！ 三木稔原案、
ニューカヴラパーフォーマンス。ベルリンでは
なんと25分間のアンコール!!——

巨火(ほて) 三木 稔 作曲 ほか

今回のスタッフ

舞台—— 堅田啓輝
ステージング—— 中島 隆
山本哲子

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

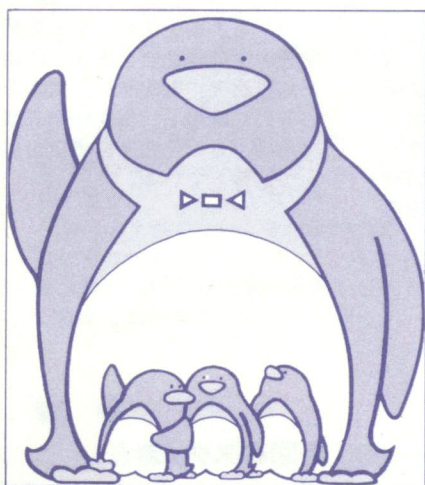


オリジナル立奏台

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL (792) 8481



あなたの生活は 守られていますか！

損害保険の安田火災はあなたの暮らしをワイドに補償致します。

あなたの保険設計はコンサルタント明和損保におまかせ下さい。

積立動産総合保険新発売！

明和損害保険企画

RM 小笠原 明男 オフィス ☎937-0547
安田火災海上保険(株)板橋支社 ☎962-7311